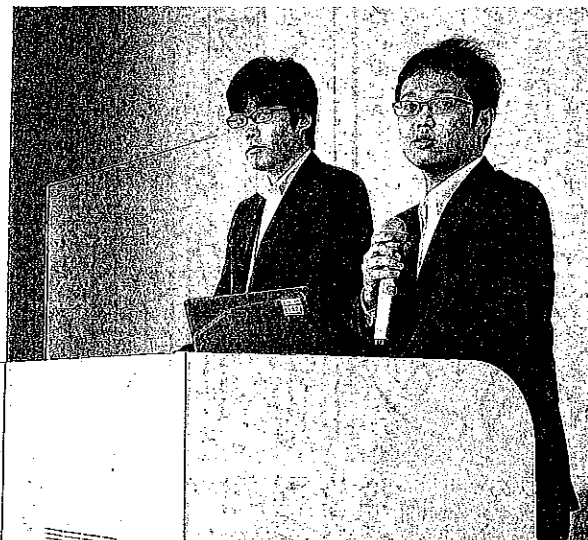


課題解決型学習

PBL運営者育成を



学生らを対象にした産学連携の課題解決型学習（PBL）プログラムなどを運営する人材の育成について試行錯誤が続けられている。「自ら考えて答えを出す力」の育成や、学生と企業の上りよいマッチングをめぐる中、対応できる専門家の整備が急務。大学や人材開発機関らは、PBLを手掛ける実践形式を用いながら担い手の輩出を図っている。
(加屋宙磨)



課題解決型学習プログラムの運営した成果を発表する担当者たち

学生と企業の間取り持つ

取り組むのは、関西圏の大学や大阪労働協会ら。文部科学省や大阪府の事業を受託し、連携しながら展開している。

今夏には、専門家を指す若者ら約10人が産学連携のPBL運営に挑戦。学生が企業の新サービスやの創出や採用活動強化に取り組むのを切り盛りした。

9月には、浪速区の大府立大 I-site なんばで成果を発表。学生が自身の課題を整理したり、成長を自覚できるように仕組みを築きつつ、それぞれが到達した結果を紹介した。

学生が企業の採用活動を強化するプログラムの運営を担当した土屋雅弘さんは「学生の気持ちが大ち込んでいるときは声掛けが大

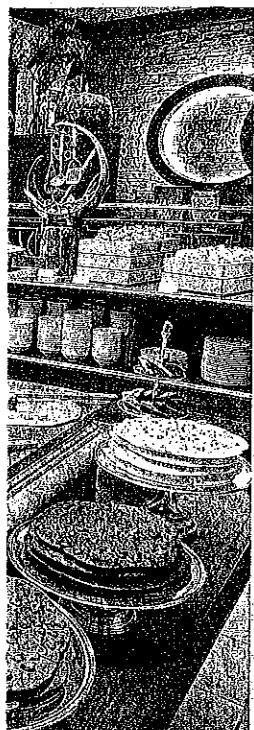
実践形式で仕組みを構築

事。企業と学生の間にとって双方にメリットがあるプログラムにできた」と自信を見せた。

参加した学生の木ノ元佑子さん（大阪市立大3年）は「皆さんに支えられたおかげで自分の言葉でプレゼンできるようになった」と話し、学生を受け入れた「ピー・ティ・アイ」の西谷則之社長は「これまでの採用活動では、技術力のアピールに力を入れていたが、学生は職場環境に関心がある点が分かり勉強になった」と学生目線の重要性を認識。今回の取り組みの中で採用に至ったケースも生まれたい。

関係者らは、PBLプログラムのメニューの開発をはじめ、専門家育成の広がり重視。今後の仕組み構築に意欲を示しており、和歌山大キャリアセンター長の饒坂恒夫教授は「大学には教員と事務職員とは別に、(就職支援といった)『出口』を担当できる専門職が必要」と訴えている。

ヨコ



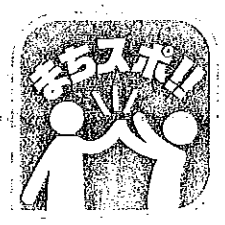
メニュー・ブッフェ

など。
同店料理長のオリアナ・テイラバツさんは「チョコレートは元気で豊かな生活をもたらしてくれる。いろいろ

しめるメニュー、チョコ50円(サービス料はコレットを使ったデコ別途必要)。問い合わせは「チョコレートは元気で」と話している。せは電話06(6343)7020、レスト午後2時半〜5時半ラン予約担当。
(齋藤架奈枝)



キックベースボールの「第27回大阪平野リーグ大会」は11日、平野区喜連7丁目の喜連小グラウンドで開かれた。平野区5チーム、平野区外の招待3チーム



今川連合子

あきよう
あした
ちみち
▽マカオのアズレージョ ポルトガル生まれのタイトルと石量
11月17日まで(水曜休館)。午前10時〜午後5時。LIXILギヤラリー。ポルトガルと中国の文化が混じり合うマカオの街並みを映像と写真で紹介。ポ
下生2を磁査館大分午休 6展か